

【精密機械カンパニー
プレジデントに聞く】

ロボット事業の
近況と今後の展開

ロボット市場の近況はいかがでしょう？

世界経済は不透明さを増していますが、ロボット市場は確実に成長しています。特に中国は、労働力不足や人件費高騰を背景に市場が拡大しており、国別の設置台数では日本を抜いて世界一となるまで成長しました。

このようなロボットの量的拡大を今まで支えてきたのは自動車産業向けですが、最近では他の産業にも広がっています。労働力不足解消、コスト削減など、お客様ごとに動機は異なりますが、自動化ニーズはかつてないほど広がりを見せており、ロボットが活躍するフィールドは拡大しています。

それから新しい潮流もあります。ロボットの安全に関する国際規格が改正され、それに適合したロボットが「人との共存・協調ロボット」として提案され始めました。当社は「duAro」という製品を開発し、お客様の要求に応じています。このような新しい要求や期待にタイムリーに応え、さらにはソリューションを提案していくことが何より重要になってきています。

今後の事業展開についてお聞かせください

今後の事業展開として3つの取り組みを挙げたいと思います。

まず第1は、産業用ロボットにおける新たな市場創造です。産業用ロボットには溶接や塗装などの定着した用途があり、これらが当社ロボットビジネスのコアとなっています。まずはこれを強化しながら、さらに用途を拡大し、産業用ロボットの裾野を広げていきます。ものづくりの現場には、自動化されていない所がまだ多く存在しますが、人との共存・協調はその解決策の一つと言えます。これについては、「duAro」を核として市場開拓を進めていきます。

第2は、新分野への挑戦です。当社は新分野の一つを医療ロボットと決めました。2013年に医療ロボット事業を目的とした株式会社メディカロイドを、シスメックス株式会社と合弁で設立しています。2016年度に既存のロボット技術をベースにした製品の販売を開始しており、2019年度には手術支援ロボットを製品化して販売する予定です。

第3は、カワサキロボットブランドの強化です。高い品質だけではなく、IoTを利用した新しいサービスを通じて、カワサキロボットへの安心感を醸成していきます。



肥田 一雄 常務取締役
精密機械カンパニー プレジデント

また、2016年8月にはブランド強化を目的に、東京お台場にショールーム「カワサキロボステージ」を開設しました。これは人とロボットの新しい関係を提案する施設です。お客様にはデモを通じてカワサキロボットを知っていただき、運営側である私たちはこれから当社が目指すべき方向をお客様から学んでいきます。

当社の技術開発について一言お願いします

当社は総合重工メーカーとして幅広い最先端技術を保有しています。また、さまざまなものづくりを行っており、ロボットによる自動化対象を多く持っています。これらの対象への適用を通じて検証した技術を、ソリューションとしてお客様に提供できることが当社の強みです。

船舶や車両の溶接や油圧機器製造ラインにおけるハンドリングなど、すでに社内の多くの現場でロボットが使われています。基盤技術から適用技術まで、幅広い分野でカンパニーや本社技術開発本部が一体となって取り組んでいます。技術開発をさらに進め、航空機製造ラインにもロボットを投入していき、これらの成果を広くお客様のソリューションへつなげていきたいと考えています。

最後に

精密機械カンパニーは「油圧機器とロボットを中核としてトータルソリューションを創造・提供する世界トップブランドのモーションコントロールメーカー」を目指しています。2010年に油圧部門とロボット部門を統合して精密機械カンパニーが発足しましたが、シナジー効果を発揮してこの目標を達成し、社会の期待に応え続けていきたいと考えています。